

市の財政状況を公表します

令和3年度の各会計の決算がまとまり、市議会9月定例会で認定されました。一般会計は、歳入総額が178億6888万円、歳出総額が167億5024万円。翌年度に繰り越すべき財源7980万円を除いた実質収支額は10億3884万円の黒字となりました。

歳入総額 178億6888万円 (23.3%減)

※()内は対前年度比

56億1858万円 自主財源	■市税	38億4121万円 (1.7%減)
	■自主財源その他	17億7737万円 (12.9%減)
122億5030万円 依存財源	■地方交付税	51億6023万円 (25.0%減)
	■国庫支出金	33億3624万円 (48.1%減)
	■県支出金	13億8888万円 (1.9%増)
	■市債	10億6218万円 (30.1%減)
	■依存財源その他	13億277万円 (12.6%増)

歳入の用語解説

- ▼市税
市民や市内企業から納付されるお金
- ▼地方交付税
財源不足を補うために、国から交付されるお金
- ▼国庫・県支出金
市が行う特定の事業の財源として、国・県から交付されるお金
- ▼市債
国や金融機関から長期にわたって借りるお金
- ▼自主財源
市税など、市が自主的に収入できるお金
- ▼依存財源
収入の中で、国や県などから交付されるお金

一般会計決算の概要

◆前年度と比べ歳入・歳出ともに50億円以上減少

■歳入 国の補正予算に伴う算定項目の追加などにより、普通交付税が増加した一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う特別定額給付金給付事業に係る国庫支出金や震災復興特別交付税が全額減少したことなどにより、令和2年度決算と比べ54億2518万円減少(23.3%減)し、178億6888万円となりました。

■歳出 強い農業・担い手づくり総合支援交付金事業(被災農業者支援型)や飼料用米等生産拡大支援事業に伴う農林水産業費の増加があったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う特別定額給付金給付事業などの民生費の減少により、令和2年度決算と比べ53億8163万円減少(24.3%減)し、167億5024万円となりました。

市の借金(市債)

◆前年度末から6億4488万円減少。市債残高は162億9982万円に

市債は、家計でいうところの借金に当たります。令和3年度末の市債残高は、令和2年度末より6億4488万円減少し、162億9982万円(一般会計153億8606万円、病院事業会計9億1376万円)となりました。

市債残高のうち、最も多いのは臨時財政対策債68億9978万円で、全体の42.3%を占めていますが、元利償還金の全額が国から補てんされるため、実質的な市の負担はありません。この他にも、市債の種類に応じて国からの補てんがあるため、市債残高162億9982万円のうち実質的な市の負担率は27.6

%となります。

◆市債残高と市の実質負担率

		市債残高	実質負担率
一般会計	臨時財政対策債	68億9978万円	0.0%
	合併特例債	46億3306万円	30.0%
	その他市債	38億5322万円	59.7%
小計		153億8606万円	24.0%
特別会計	病院事業債	9億1376万円	88.8%
合計		162億9982万円	27.6%

※合計などは四捨五入の関係で一致しないことがあります。

◆会計別決算額

一般会計	
歳入	178億6888万円
歳出	167億5024万円
差し引き	11億1864万円
実質収支	10億3884万円
国民健康保険特別会計	
歳入	48億1032万円
歳出	45億8170万円
差し引き	2億2863万円
実質収支	2億2863万円
後期高齢者医療特別会計	
歳入	4億8296万円
歳出	4億8146万円
差し引き	151万円
実質収支	151万円
介護保険特別会計	
歳入	38億8765万円
歳出	37億3393万円
差し引き	1億5372万円
実質収支	1億5372万円

※差し引きなどは四捨五入の関係で一致しないことがあります。

歳出総額 167億5024万円 (24.3%減)

※()内は対前年度比

歳出の用語解説

- ▼民生費
児童・高齢者・障がい者福祉などに係る経費
- ▼教育費
小・中学校など教育行政に係る経費
- ▼総務費
一般事務経費や防災などに係る経費
- ▼衛生費
市民の健康づくり、ごみ処理などに係る経費
- ▼公債費
市債の返済に係る経費
- ▼農林水産業費
農林水産業の振興に係る経費
- ▼土木費
道路や公園などの整備や管理に係る経費
- ▼消防費
常備消防や消防団に係る経費

民生費	61億6220万円 (31.0%減)
教育費	20億1371万円 (0.3%減)
総務費	19億7128万円 (2.1%増)
衛生費	19億3368万円 (57.8%減)
公債費	17億4987万円 (3.1%増)
農林水産業費	10億2867万円 (12.2%増)
土木費	7億6825万円 (5.8%増)
消防費	7億362万円 (0.7%減)
その他	4億1896万円 (32.2%減)

市の貯金(基金)

◆前年度末から2億8808万円増加、基金残高は64億4255万円に

基金は、家計でいうところの貯金に当たり、現在、財政調整基金や地域振興基金など、14の基金があります。

令和3年度末の基金残高は、令和2年度末より2億

8808万円増加し、合計64億4255万円となりました。これは、国民健康保険財政調整基金などを取り崩して使用した一方で、財政調整基金や減債基金などが増加したことによるものです。

健全化判断比率・資金不足比率

◆いずれの指標も健全段階

健全化判断比率と資金不足比率は、自治体の財政状況を判断するための指標です。

健全化判断比率は、「健全段階」、「早期健全化段階」、「財政再生段階」の3段階に区分され、早期健全化段階や財政再建段階となった場合には、それぞれの段階

に応じて財政健全化を図ることとなります。また、資金不足比率は、公営企業の事業規模に対する資金不足額の割合を示すものです。

令和3年度決算における市の健全化判断比率と資金不足比率は、いずれも健全段階にあります。

◆健全化判断比率

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
匠瑳市	赤字なし	赤字なし	6.40%	15.50%
早期健全化基準	13.31%	18.31%	25.00%	350.00%
財政再生基準	20.00%	30.00%	35.00%	設定なし

◆資金不足比率

	資金不足比率
病院事業会計	資金不足なし
経営健全化基準	20.0%

用語解説

実質赤字比率…市の財政規模に対する一般会計の赤字の割合

連結実質赤字比率…市の財政規模に対するすべての会計の赤字の割合

実質公債費比率…市の財政規模に対する借金返済額の割合

将来負担比率…市の財政規模に対する負債の割合